「ケロット」の無償ゴミ袋

地域へ書籍や横断旗も

山佐㈱

岡山県新見市に本社を置く山佐㈱（佐野慎一社長）は、いうまでもなくパチスロメーカーの老舗中の老舗です。1980年の「パチスロパルサー」は一世を風靡、ファンには今も忘れられない〝名機〟として深く記憶に刻まれています。

当時はまだよちよち歩きだったパチスロ市場の土台を築いたのもこの1台でした。最近では「パチスロ戦国無双」「パチスロモンキーターン」「パチスロ鉄拳」シリーズなどで、また多くの若いファンの安定した支持を得ている会社でもあります。

今では押しも押されぬ安定した優良企業の山佐は、身近な社会貢献活動にもことのほか積極的です。最近注目されるのが、岡山県内にある本社、工場など3拠点で有志社員が毎月1回行っている、近隣の清掃活動です。地元の人から大変感謝されているようです。活動を始めたのは2011年から。

今では社員もすっかり慣れました。参加したある社員は「近隣の方から挨拶やお礼の言葉をかけていただき、同じ地域で生活をしていてもふだん言葉を交わすこともない方々と触れ合え、地域貢献できることに喜びを感じます」と語っています。

山佐のメインキャラクターはカエルの「ケロット」。ここから、自然の影響を受けやすく、環境保護のバロメーターと言われるカエルを守るお手伝い、自然を守るお手伝いをしたい、と、自社はむろん全国の企業、NPOの環境保全活動の支援を行っています。名づけて「ケロットクリーンアクション」。主な活動は、各団体の地域清掃やゴミ拾いなどに使ってもらうための無償でのゴミ袋提供であり、最近では「ケロット」のマークの入ったゴミ袋で地域清掃に汗を流す人の姿が各地で見られます。

（上から）近隣の清掃活動、無償で提供しているゴミ袋、山佐文庫贈呈式

「復興」へ数々の独自支援

地域貢献ではさらに、本社を置く新見市や工場のある浅口市で、書籍や横断旗の寄贈を行なっています。地域の小学校や図書館では〝山佐文庫〟というコーナーを設け、子どもたちや地域の方々の読書環境に役立ててもらっています。昨年12月、山佐では浅口市に図書や交通安全用品（横断旗）などを寄付しました。地元新聞によると、この寄贈は3回目ということです。

こんな山佐ですから、東日本大震災の救援活動には独自の救援隊を組織。石巻市では会場設営から、一切合財を含め4300食以上の炊き出しを行いました。郡山市では、震災以降、催しがなかった地元の伝統行事「えびす講市」の復活開催のお手伝いをしました。また避難を余儀なくされている富岡町の復興テーマソングの制作発表も行いました。富岡町民の思い出を題材にしたテーマソング「桜舞う町で」は既に完成し、披露されました。東松島では、殺風景な仮設住宅に彩りを取り戻そうと、現地の人の協力も得ながら、花文字を作る「花文字大作戦～I♥ひがしまつしま～」を展開しました。作業に協力いただいた地元の方やボランティアには、流しそうめんやバーベキューも振舞われました。これらは仮設で暮らす子どもたちやお年寄りにも大歓迎され、地元新聞にも大きく取り上げられました。

身近な地域社会から、遠く離れた東日本大震災の被災地まで、山佐の社会貢献活動は、多彩な展開を遂げようとしています。

（上から）郡山市の伝統行事えびす講市、東松島の花文字大作戦作業風景